

プッチーニ作曲 オペラ「蝶々夫人」(全2幕、イタリア語上演、日本語字幕付き)

作品について

作曲：ジャコモ・プッチーニ（1858～1924）

台本：ジュゼッペ・ジャコーザ（1847～1906）／ルイーダ・イッリカ（1857～1919）

初演：1904年2月17日、ミラノ・スカラ座

原作：デーヴィッド・ベラスコ（1859～1931）の戯曲「Madame Butterfly」

※ジョン・ルーサー・ロング（1861～1927）の短編小説「蝶々夫人」に基づく。

日本を題材にした有名な作品でありながら、愛知県芸術劇場での本格的な舞台上演は意外と少なく、お客様からの上演を望む声も多い。作品中に「さくらさくら」など日本の旋律が取り入れられており、また2幕1場で蝶々さんが歌うアリア「ある晴れた日に」を始め、美しいメロディーが多い。

あらすじ

19世紀末の港町・長崎。アメリカ海軍の士官ピンカートンは、結婚仲介人ゴローに紹介された15歳の芸者・蝶々さんと結婚式を挙げる。蝶々さんは愛するピンカートンのため叔父の僧侶ボンゾに非難されるのを承知でキリスト教に改宗したが、ピンカートンは、日本滞在中だけの軽い気持ちでしかない。

やがて、ピンカートンはアメリカに帰国し、年月が過ぎるが、それでも蝶々さんは彼が戻ってくる事を信じている。領事シャープレスは、蝶々さんに、もしピンカートンが戻ってこなかったら、と尋ねるが、蝶々さんはピンカートンとの間に生まれた子供を見せ、そんな事は有り得ないと言い張る。ついに、ピンカートンの乗る船が寄港する。蝶々さんと女中のスズキは喜ぶが、ピンカートンは帰らないまま夜が明ける。

スズキが夜通し寝ていない蝶々さんを休ませたところに、ピンカートンとシャープレスが登場し、蝶々さんの子供を渡すように説得するよう、スズキは説き伏せられる。ピンカートンのアメリカ人妻ケイトと対面した蝶々さんはすべてを悟り、子供を渡すことを約束する。そして、父の形見の刀で自刃する。

今回のプロダクションについて

「蝶々夫人」の魅力は、観るものを引き込み、感情移入せずには居られない悲劇的なストーリーと、随所に散りばめられた日本旋律が見事にイタリアオペラと融合された美しい音楽にあります。まさに、イタリアと日本の文化が交錯して生まれた稀な存在なのです。

悲劇のヒロインである蝶々さん役には、華麗な舞台姿と優れた音楽性で次世代を担うディーヴァの呼び声高い **安藤赴美子** が挑みます。“ソプラノ殺し”とも言われる難役をどのように歌い演じ切るのか注目です。そして、その蝶々さんが一途に愛するピンカートン役に、プッチーニを得意とするイタリア人テノールの **カルロ・バッリチェッリ**、ドラマの重要な鍵を握るシャープレス役に、イタリアの正統派バリトンとして今最も期待されている **ガブリエレ・ヴィヴィアーニ** と2人の外国人を起用。その他のソリストもスズキ役の **田村由貴絵**、ゴロー役の **晴雅彦** など、日本トップクラスの実力派揃いです。

指揮には、**カルロ・モンタナーロ** を招きます。2009年1月の新国立劇場「蝶々夫人」でも絶賛を博したマエストロが、プッチーニの音楽を余すところなく聴かせます。演出には建築出身の新進気鋭、**田尾下哲** が空間を意識したスタイリッシュな舞台を繰り広げます。

カルロ・モンタナーロ (Carlo Montanaro, 指揮)

イタリア人の指揮者カルロ・モンタナーロはズービン・メータに認められ、メータの推薦によりウィーン音楽大学でL.ハーガー、エルヴィン・アーチェル等に師事して3年の間研鑽を積む。

2001年より、モンタナーロはローマ歌劇場、パレルモのマッシモ劇場、ヴェローナ野外劇場、フェニーチェ歌劇場、パルマのアルトゥーロ・トスカニーニ財団、トリエステのヴェルディ劇場などの主要な会場で、オペラやコンサートの指揮活動を開始。ヴェルディ劇場では管弦楽団の日本ツアーにも参加。演目は、『ランメルモールのルチア』『ナブッコ』『アイーダ』『トスカ』『夢遊病の女』『セヴィリヤの理髪師』『蝶々夫人』『ラ・ボエーム』。ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、エル・オペラなど主要な会場オペラやコンサートの指揮活動を開始。



フィレンツェ市立劇場で2004-2005シーズンで2作品を指揮、ヴェローナ野外劇場財団主催のコンサートでもマルキジャーナ・フィラルモニコ管弦楽団やレッジョ・カラブリアのチレーア劇場、フィレンツェ5月音楽祭管弦楽団などとのコンサートも多数指揮。

その他では、テル・アビブのイスラエルオペラで新制作の『仮面舞踏会』で、アメリカデビューとなったコロラドではドニゼッティ『愛の妙薬』、ビルバオでは『カルメル会修道女の対話』を、ドイツ・ベルリン歌劇場では『蝶々夫人』を指揮し、それぞれ大好評を博す。

スカラ座のデビューは『椿姫』、マチェラータ夏音楽祭ではダンテ・フェレッティの演出の『カルメン』でオープニングを指揮。パルマのヴェルディフェスティバルで『海賊』を、ミュンヘンのヘラクレスザールにはワイマール・シュターツカペレとアーヴィン・シュロットと共演してデビュー。

東京の新国立劇場では『蝶々夫人』でデビュー。デンバーのコロラド・オペラで『コシ・ファン・トゥッテ』で再登場。

アテネのメガロンでは新制作の『シモン・ボッカネグラ』を指揮して好評を博し、『アイーダ』で再び招聘される。カナダの2009/10シーズンのオープニングで『蝶々夫人』を指揮、ヴェニスフェニーチェ劇場で『ロミオとジュリエット』を、フランクフルトで『メフィストフェレ』で成功をおさめ、グラーツでは『レクイエム』も指揮。『ロミオとジュリエット』をヴェローナで、『椿姫』をミュンヘンで、『アイーダ』をハンブルグで指揮し、それぞれ聴衆と批評家から好評を得る。

ドレスデンには『カルメン』でデビューし成功をおさめ、その後『セヴィリヤの理髪師』と新制作の『仮面舞踏会』も指揮。

シアトルで『ドン・キホーテ』、ワルシャワで新制作の『トゥーランドット』を、ビルバオで『ランメルモールのルチア』。ドレスデンでは『セヴィリヤの理髪師』新制作の『仮面舞踏会』で高い評価を受ける。ハンブルグでは『アイーダ』を、フィレンツェ市立劇場で『ラ・ボエーム』を、シアトルオペラで『アッティラ』、『友人フリッツ』と新制作の『アドリアーナ・ルクブルール』をフランクフルトで、ハンブルグで『マノン・レスコー』『トゥーランドット』『マクベス』を、『椿姫』をワルシャワで指揮。

今後は、フランクフルトで『ドン・カルロ』、シアトルで『ファウスト』『ラ・ボエーム』、ミュンヘンで『カルメン』『トスカ』『愛の妙薬』、シンシナティで『椿姫』、東京で『セヴィリヤの理髪師』、ハンブルグで『西部の娘』、ドレスデンで『仮面舞踏会』、ワルシャワで『ドン・カルロ』『トゥーランドット』。

最近モンタナーロはワルシャワのヴィエルキ劇場の音楽監督に就任。

田尾下 哲 (たおした てつ、演出)

1972年兵庫生まれ。慶應義塾大学理工学部計測工学科中退。東京大学工学部建築学科卒業。同大学院学際情報学府修士課程修了、同博士課程単位取得満期退学。平成21年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。

ドイツ人演出家ミヒャエル・ハンペとの出会いを機に本格的に演出を学び、2000年から演出家として活動を開始、2003年から2009年まで、新国立劇場オペラ・チーフ演出スタッフを務めた。

新国立劇場では、約70のプロダクションに参加。

アンドレアス・ホモキ、ニコラ・ムシン、フィリップ・アルロー、キース・ウォーナー、ジョナサン・ミラー、マティアス・フォン・シュテークマン、グリーシャ・アサガロフ、ハンス＝ペーター・レーマン、デヴィッド・パウトニー、コルネリア・レプシュレーガー、マルコ＝アルトゥーロ・マレッリ、ジョゼフ・ケップリンガー、エミリオ・サージ、ヘニング・ブロックハウス等の演出助手を務め、再演演出家として『マクベス』、『フィガロの結婚』、『セヴィリアの理髪師』等多数を担当。

『スペース・トゥーランドット』、『フラ・ディアヴォロ』では演出だけでなく台本も担当した。

2009年6月、チューリヒ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』(グリーシャ・アサガロフ演出、クーラ、マーロック、チェドリンズ主演)で共同演出家・振付家としてヨーロッパデビュー。当公演は2010年4月、クラシックの名門レーベル、ドイツ・ARTHAUS MUSIKより世界発売された。以後、コーミッシェ・オパー、ベルリン『ラ・ボエーム』(アンドレアス・ホモキ演出)、NYリンカーンセンターの新作ミュージカル『神経症ギリギリの女たち』(バートレット・シャー演出)等に参加。

演出家としての活動は、新国立劇場以外において、首都オペラ『運命の力』(2005)、日生劇場『カブレーティ家とモンテッキ家』(2007)、岸恵子朗読劇(2010, 2011)、日生劇場ミュージカル『三銃士』(2011)、新日本フィル『ペレアスとメリザンド』(2010)、『トリストランとイゾルデ』(2011)、ホリプロミュージカル『ボニー&クライド』など多数。

他に、野田秀樹の演出助手として歌舞伎座《野田版愛陀姫》やNODA MAP公演『南へ』、蜷川幸雄『欲望という名の電車』、松竹映画『CASSHERN』(紀里谷和明監督)などに参加し、ジャンルを超えた活動を続けている。

2012年は、ホリプロ『ボニー&クライド』、東宝『ソングス・フォー・ア・ニュー・ワールド』、二期会『カヴァレリア／道化師』、一柳慧新作オペラ『ハーメルンの笛吹き男』、フジTV『プロミセス・プロミセス』等を演出。他に、野田秀樹のプロダクションに参加するなどジャンルを超えた活動を続けており、劇作家としての活動も控えている。



安藤 赴美子 (あんどう ふみこ、ソプラノ、蝶々さん役)

北海道出身。国立音楽大学声楽学科卒業、同大学院声楽専攻(オペラ)修了。新国立劇場オペラ研修所第3期生修了。文化庁派遣芸術家在外派遣員としてイタリア留学。パオラ・モリナーリ、セルジョ・ベルトッキの各氏等に師事。

国立音楽大学大学院新人演奏会、サントリーデビューコンサート・レインボー21、二期会クリスタルコンサート、新国立劇場小劇場オペラ公演『イタリアのモーツァルト』などに出演。

国立音楽大学大学院オペラ公演『コシ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージでデビュー。新国立劇場オペラ研修所公演『コシ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『魔笛』侍女 I、『フィガロの結婚』(ミヒヤエル・ハンペ監修)伯爵夫人で好評を博す。



2006年2月、二期会公演『ラ・ボエーム』ムゼッタで二期会オペラデビュー。

高い音楽性と美しい舞台姿で絶賛を博し、今後への期待を大いに高めた。2007年3月には新国立劇場中劇場バレエ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで出演。2009年2月、東京二期会『椿姫』(宮本亜門演出 新制作)のヴィオレッタ役に抜擢され出演、多彩で細やかな表現と品格ある演唱でプリマドンナとしての将来性を十分に印象付けた。同年6月～7月兵庫、東京、愛知の国内3箇所で開催された佐渡裕プロデュースオペラ『カルメン』(ジャン＝ルイ・マルティノーティ演出)ミカエラ、更に10月新国立劇場『魔笛』侍女 I で好評を博した。2011年11月新国立劇場『ルサルカ』第一の森の精に出演。2012年びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作オペラ『タンホイザー』エリザベートでの活躍は絶賛されると共に新境地を開いた。2013年3月神奈川県民ホール・びわ湖ホール『椿姫』にヴィオレッタで出演予定。

コンサートに於いては、2003年ポートランド・オペラ・パフォーミング・インスティテュート(USA)に招待されガラ・コンサート出演。2004年国際音楽祭ヤングプラハへ参加し、プラハ室内管弦楽団とのオープニング・コンサート、ヴァンヘル「スターバト・マーテル」をキューン合唱団、国立音楽大学合唱団等と共演し好評を博す。2009年、2011年NHK交響楽団「第九」のソリストを務めるなど、次世代を担うソプラノとして、各方面より大きな期待が寄せられている。2011年1月、二期会ゴールデンコンサートに出演。NHK名曲アルバム等でも好評を得ている。二期会会員。

カルロ・バリッチェリ (Carlo Barricelli、テノール、士官ピンカートン役)

1968年9月14日生まれ。

ベネヴェント(カンパーニア州)の国立音楽院にて学び、その後F.コレリ、P.ヴェントゥーリの下で声楽の研鑽を積む。

『蝶々夫人』(チェゼーナ、パヴィア、コモ、ブレッシヤ、ベルガモ、クレモナ)でのピンカートン、As.Li.Co.制作のプッチーニ『ラ・ボエーム』(パヴィア、ブレッシヤ、コモ、ベルガモ、クレモナ)でのロドルフォにて大成功を収めた後、プッチーニとヴェルディのテノール役にとって理想的な演奏者として評価を確立する。事実、イタリア紙ラ・ナツィオーネは“強靱で活力に満ちた声に支えられたロマン的英雄の役に完全になりきるテノール”と評価する。

その後も、ギリシャのテッサロニキとナポリ・サンカルロ劇場での『トスカ』(カヴァラドッシ)、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場とノヴァラ・コッチャ劇場での『ラ・ボエーム』(ロドルフォ)、デュッセルドルフのドイチェ・オーパー・アム・ラインでの『ノルマ』(ポッリオネ)と『トスカ』(カヴァラドッシ)、ヴェネツィア・フェニーチェ劇場での『ナブッコ』(イズマエーレ)また、『蝶々夫人』(ピンカートン)ではヴェローナ野外劇場でのフランコ・ゼッフィレリ演出ならびにシュツットガルト国立歌劇場でのニコラ・ルイゾッティ指揮、トッレ・デル・ラーゴ・プッチーニ・フェスティバルへの出演と、主要なプロダクションでのキャリアを重ねる

また、成功を収めた最近の出演としては、フィレンツェでのヴェルディ「レクイエム」。カリアリ歌劇場での『マノン・レスコー』(デ・グリユー)、『カヴァレリア・ルスティカーナ』『道化師』、シドニー・オペラ、レッチェのギリシャ大劇場、ブリズベーンのクイーンズランド・オペラでの『西部の娘』(ディック・ジョンソン)、リュブリャナのスロベニア国立歌劇場とエストニアのタリンでの『マノン・レスコー』(デ・グリユー)、トリエステ・ヴェルディ歌劇場での『リミニのフランチェスカ』が挙げられる。



ガブリエーレ・ヴィヴィアーニ (Gabriele Viviani、バリトン、領事シャープレス役)

ガブリエーレ・ヴィヴィアーニはイタリアのルッカ生まれ。グラッツィアーノ・ポリドーリに師事しながら、ルッカのボッケリーニ音楽院でオーボエと声楽をマルコ・ボッカッシーニとフィオヴァンニ・ダニーノに学ぶ。

数々の国際的なコンクールに参加し、キャリアリオペラ劇場モーツァルト・コンクールで優勝し、ドン・ジョヴァンニとフィガロの役を与えられる。またカッシーナ・オペラ・コンクールでマスカーニ賞を受賞、トレヴィソのトティ・ダル・モンテコンクールでは奨学金を授与される。この奨学金により、メゾ・ソプラノのレギーナ・レスニクのマスタークラスを受講、その後まもなくピーター・マーグ演出のグノー『ファウスト』のヴァランタン役でデビューをはたす。

年齢が若いにも関わらず、『愛の妙薬』のベルコーレや『ドン・パスクワレ』のマラテスタをボローニャで歌い好評を博す。またサントリーホールで『ラ・ボエーム』のマルチェロ、2004/05 シーズンの最優秀歌手賞を受賞したトリ



エステで『蝶々夫人』シャープレスを、ジェノヴァで『ラ・ファヴォリータ』『蝶々夫人』『妖精ヴィツリ』、ボローニャ市立歌劇場とヴァレンシアで『ラ・ボエーム』、スカラ座でローリン・マゼール指揮により『蝶々夫人』、ウィーンで『清教徒』、ヴェローナ音楽祭とトルレ・デッラーゴのプッチーニ・フェスティバルで『ラ・ボエーム』、ローザンヌとサン・フランシスコ・オペラで『ランメルモールのルチア』にそれぞれ出演。ヴェローナ・フィラルモニコ劇場とマチェラータ・フェスティヴァルで『椿姫』、ヴァレンシアで『トロイアの人々』に出演。ヴェニスでニコラ・ルイゾッティの指揮による『椿姫』、コヴェント・ガーデンで『ラ・ボエーム』、シカゴで『愛の妙薬』、ヴァレンシアで『椿姫』。再びヴェローナで『蝶々夫人』。トリノ王立劇場の日本ツアーで『ラ・ボエーム』、スカラ座で『愛の妙薬』と新制作の『パリアッチ』。トリノ王立歌劇場には『シチリア島の夕べの祈り』モンフォルテ総督で聴衆及び批評家から絶賛される。

最近ではパリのシャン・ゼリゼ劇場で『ドン・パスクワレ』、ベルリンで『ルイーザ・ミラー』、ウィーン・フェスティバルで『椿姫』、トリノで『仮面舞踏会』、トルレ・デッラーゴのプッチーニ・フェスティバルで『ラ・ボエーム』、ウィーンで『シチリア島の夕べの祈り』で出演。

今後は、『仮面舞踏会』(ウィーンとスカラ座)、『ラ・ボエーム』(ロイヤル・オペラ・ハウス)、『ドン・カルロ』(フィレンツェ)、『愛の妙薬』(マドリッド)、『椿姫』(オヴィエド及びバルセロナ)、『蝶々夫人』(オペラ・バステューユ)が予定されている。

田村 由貴絵 (たむら ゆきえ、メゾ・ソプラノ、女中スズキ役)

東京都出身。お茶の水女子大学及び東京芸術大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース第五期修了、中山悌一賞受賞。東京芸術大学在籍中より数々のオペラ公演に出演。

二期会公演は、2002年ニューウェーブ・オペラ『ポッペアの戴冠』オッターヴィアで二期会デビュー、その後も『ジュリアス・シーザー』(ジュリオ・チェーザレ)タイトル・ロール、東京二期会・ケルン市立歌劇場共同制作『ばらの騎士』、『コジ・ファン・トゥッテ』に出演し各方面から注目を浴びた。

そのほか、新日本フィルハーモニー交響楽団『火刑台上のジャンヌ・ダルク』、日本オペラ団体連盟『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、東京オペラグループ『フィガロの結婚』マルチェリーナ等でも好評を博す。

近年では2008年9月、東京二期会『エフゲニー・オネーギン』(ペーター・コンヴィチュニー演出)オルガ、2009年11月、日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』(ブレーメン劇場版)ヘンゼルで出演し、生き活きとした歌唱と演技で聴衆を魅了したのは記憶に新しい。

コンサートでは、マーラー「大地の歌」「復活」、ヴィヴァルディ「グローリア・ミサ」、バッハ「ロ短調ミサ」「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」などソリストとしても数多くの舞台に出演し、常に高い評価を得ている。

愛知県芸術劇場へは、2006年1月、コンサートシリーズ音楽への扉“移ろいゆくオペラ”、2009年7月、佐渡裕プロデュースオペラ『カルメン』(兵庫・東京・愛知の3都市開催、ジャン＝ルイ・マルティノーティ演出)メルセデスで出演している。

2013年1月NHKニューイヤーオペラコンサートに出演。9月にはびわ湖・神奈川県民ホール『ワルキューレ』に出演が決定している。二期会会員。



晴 雅彦 (はれ まさひこ、バリトン、結婚仲介人ゴロー役)

大阪音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツ・ベルリンに留学。ドイツ・ケムニッツ市立劇場『魔笛』パパゲーノでヨーロッパ・デビュー後、同劇場『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ウインザーの陽気な女房たち』Dr.カイウス、ドイツ・ザクセン州立劇場『蝶々夫人』ゴロー、ドイツ・ラインスベルク音楽祭『ヴァルデー』ドルモンズ・ゾーン、スウェーデン・ヴァドステーナ音楽祭『ヴァルデー』ドルモンズ・ゾーン等で出演。

新国立劇場『運命の力』フラ・メリーネ、『トスカ』堂守、『ルル』猛獣遣い、『ばらの騎士』公証人、『フィガロの結婚』アントニオ、『ラ・ボエーム』アルチンドロ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・シュヴァルツ等をはじめ、日生劇場オペラ教室『蝶々夫人』(愛知県芸術劇場)ゴロー、愛知県芸術劇場『ホフマン物語』スパランツァーニ、東京芸術劇場『イリス』キョート、『カルメン』ダンカイロ、神奈川県民ホール『トゥーランドット』ピン、『ラ・ボエーム』アルチンドロ、横浜みなとみらいホール『蝶々夫人』ゴロー、日生劇場『ジャンニ・スキッキ』スピネロッツォ、兵庫県立芸術文化センター『魔笛』パパゲーノ、『蝶々夫人』ゴロー、『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、『メリー・ウイドウ』サンブリオッシュ、『こうもり』プリント、『夕鶴』運ず、『人魚姫』王子、魔女他、びわ湖ホール『トゥーランドット』ピン、『フィガロの結婚』伯爵、『ラ・ボエーム』アルチンドロ、『ジプシー男爵』シュパン、まつもと市民芸術館『こうもり』フロッシュ、神戸文化ホール『フィガロの結婚』伯爵、『蝶々夫人』ゴロー、『夕鶴』運ず、『魔弾の射手』キリアン、石川県立音楽堂『カルメン』ダンカイロ、富山市オーバード・ホール『ラ・ボエーム』ベノア、アルチンドロ、『フィガロの結婚』アントニオ、いずみホール『魔笛』パパゲーノ、『カーリュウ・リヴァー』船頭、京都コンサートホール『イリス』キョート、大阪国際フェスティバル『ラ・ボエーム』アルチンドロ、福井県立音楽堂『カルメン』ダンカイロ、ザ・カレッジ・オペラハウス『魔笛』パパゲーノ、『アルバート・ヘリング』シッド、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『トスカ』堂守、『イル・カンピエッロ』アストルフィ、『ジャンニ・スキッキ』スピネロッツォ、アマンティオ、『領事』アッサン、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、関西二期会『魔笛』パパゲーノ、『アルバート・ヘリング』シッド、『蝶々夫人』ゴロー、『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、堺シティオペラ『ドン・カルロ』ロドリゴ、『ジャンニ・スキッキ』ジャンニ・スキッキ、『魔笛』パパゲーノ、『蝶々夫人』ゴロー、『こうもり』アイゼンシュタイン、『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ラ・ボエーム』シヨナル、名古屋二期会『フィガロの結婚』伯爵等、全国各地で活躍。

『魔笛』パパゲーノでチョン・ミョンフンやテオ・アダムと共演し、『ラ・ボエーム』ベノア、アルチンドロでもチョン・ミョンフンと共演。また、ペーター・シュナイダー、ダン・エッティンガー、アントン・レック、ウルフ・シルマー、パスカール・ヴェロ等、著名な指揮者とも共演。

ロシア・レニングラード国立歌劇場管弦楽団をはじめ、大阪フィル、東京フィル、読売日響、東京都響、日本センチュリー、大阪響、兵庫 PAC、京都市響、京都フィル、関西フィル、オペラハウス管弦楽団、テレマン室内管弦楽団、アンサンブル金沢、セントラル愛知等と共演により、ベートーヴェン「第九」、モーツァルト「レクイエム」、フォーレ「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、マーラー「さすらう若人の歌」、平野公崇「七つの絵」等のソロなどコンサートでも活躍。

NHK「にんげんマップ」「名曲リサイタル」「あほやねん！ すきやねん！」、JOEX「題名のない音楽会」、YTV「秘密のケンミン SHOW」「いただき！ ナハ〜レ！」「大阪ほんわかテレビ」、TBS「はなまるマーケット」「ニュース1130」等出演。

大阪府芸術劇場奨励新人、大阪市・咲くやこの花賞、大阪文化祭賞奨励賞、兵庫県芸術奨励賞を受賞。全日本学生音楽コンクール審査員、大阪国際音楽コンクール審査員。大阪音楽大学准教授。



豊島 雄一（とよしま ゆういち、バリトン、僧侶ボンゾ役）

北海道出身。武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。1993年北海道国際音楽交流使節団の奨学生としてミラノに留学。99～01年第8回リクルート・スカラシップ生としてイタリアに留学。03年から文化庁派遣芸術家在外研修員としてミラノ音楽院で研鑽を積む。第5回ハイメスコンクール第1位。第32回日伊声楽コンクール、第4回F.タリアヴィーニ国際コンクール入選。第13回パヴィア声楽国際コンクール第4位。

武蔵野音楽大学オペラで『魔笛』の武士、『ドン・ジョヴァンニ』の騎士長に出演。98年にミラノでの『リゴレット』のタイトルロールでイタリアでのオペラデビュー。続いて『ラ・トラヴィアータ』のジェルモン、『ラ・ボエーム』のショナール（共演/L.サッコマーニ）に出演。在外研修中、サンタシオーラ音楽祭『蝶々夫人』のシャープレス、ミラノ市立パオロ・グラッシ演劇学校主催『ラ・トラヴィアータ』のジェルモンのほか、イタリアをはじめ、ヨーロッパ各地でコンサートに出演。帰国後、新国立劇場で『仮面舞踏会』『ドン・カルロ』『ウェルテル』『カルメン』のほか、オペラ鑑賞教室『トスカ』に出演。

藤原歌劇団では06・07年『蝶々夫人』のボンゾで好評を博している。日本オペラ協会に09年『天守物語』の朱の盤坊でデビューし、本年2月にも同役を好演。

その他コンサートでは「日韓合同ヴォーカルコンサート」の日本代表としてソウルと東京にて演奏のほか、ヘンデル「メサイア」、バッハ「ロ短調ミサ」、メンデルスゾーン「ラウダシオン」、モーツァルト「レクイエム」、ヴェルディ「レクイエム」などのソリストとしても活躍している。藤原歌劇団団員。



清水 良一（しみず りょういち、バリトン、公爵ヤマドリ役）

茨城県出身。武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院修了。第66回日本音楽コンクール第2位。第3回藤沢オペラコンクール第2位。第10回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、木下保賞受賞。平成12年度文化庁在外派遣研修員としてイタリアに留学。留学中、フラヴィアーノ『ラボの思い出』、オーケストラ・レジーナ「ヴェルディ没後100年コンサート」「マリオ・デル・モナコ記念コンサート」などのコンサートに出演し、いずれも好評を博す。その他、ルーマニアイアシ市立歌劇場にて『リゴレット』に出演。

藤原歌劇団には02年新国立劇場共催公演『カルメン』のモラレスでデビュー後、『ロメオとジュリエット』のグレゴリオに出演。06年『蝶々夫人』のヤマドリに出演し好評を博した。また、日本オペラ協会に08年『美女と野獣』の紅屋でデビューし、『天守物語』の山隅九平、『夕鶴』の運ず、『高野聖』の薬売りに出演。本年2月『天守物語』の朱の盤坊に出演し好評を博した。

その他国内では、藤沢市民オペラ『リエンツィ』のオルシーニ、『ラ・ボエーム』のショナール、『地獄のオルフェ』のジュピター、『トゥーランドット』のピンをはじめ、水戸芸術館オペラ公演『魔笛』パンゲーノ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などのオペラに出演の他、宗教曲や「第九」のソロ、リサイタル、各種コンサートで活躍している。

藤原歌劇団団員。



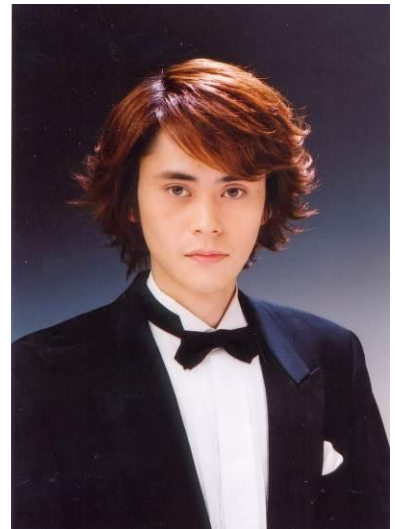
塩入 功司 (しおいり こうじ、バリトン、神官役)

洗足学園大学音楽学部声楽科卒業。

同大学院修了。二期会オペラスタジオ第43期マスタークラス修了。修了時に優秀賞受賞。第2回「万里の長城杯国際音楽コンクール」声楽・一般の部A第3位。第34回イタリア声楽コンクールソ入選。植木桂、福島明也の両氏に師事。「二期会新進声楽家のタベ」、ベートーベン「第九」、宮城道雄・交声曲「日蓮」のソリストを務める。

オペラでは、モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』(グリエルモ)、『魔笛』(パパゲーノ、モノスタス)、プッチーニ『蝶々夫人』(役人)、ビゼー『カルメン』(モラレス)、東京交響楽団第509回定期演奏会・秋山和慶指揮ヤナーチェク『死者の家から』(鍛冶屋の囚人、炊事番の囚人)、2004年野田秀樹の演出で話題となった新国立劇場・ヴェルディ『マクベス』(伝令)に出演。新国立劇場合唱団員の一員として数多くの舞台を経験、世界的な指揮者、歌手との共演を通して、研鑽を積んでいる。『マクベス』は2005年1月の再演時にも同役で出演、彩の国ベートーヴェン・シリーズ『フィデリオ』ではドン・ピッツァロのカヴァーを務め、3月クリスティアン・アルミンク指揮新日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会ベートーヴェン歌劇『レオノーラ』(コンサート・オペラ形式)ドン・フェルナンド役、9月シアター1010日米協同によるオペラ『じょうり』(三木稔作曲)に出演。2012年7月東京二期会『パリアッチ』シルヴィオ役で出演したのは記憶に新しい。

輝きのある声と、的確なテクニックを生かした歌唱、敏捷性のある演技とともに注目される若手歌手のひとりである。二期会会員。



大須賀 園枝 (おおすか そのえ、ソプラノ、ピンカートンの妻ケイト役)

愛知県出身。名古屋芸術大学卒業。サルデニア・カリアリ夏季国際音楽アカデミーにおいてカーティア・リッチャレツリに師事。

二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時優秀賞受賞。

第9回全日本ソリストコンテスト声楽部門優秀賞。第4回万里の頂上杯国際音楽コンクール第3位、第113回日演連推薦新人演奏会出演、中日賞、名古屋芸術大学賞受賞。第35回イタリア声楽コンクールミラノ部門、36回同コンクール・シエナ部門入賞。第4回長久手オペラ声楽コンクールファイナリスト。「プルチネッラ」、「カルミナ・ブラーナ」、フォーレ「レクイエム」、モーツァルト「レクイエム」、第九等のソリストや『オベロン』人魚、『カルメン』ミカエラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『椿姫』ヴィオレッタ等で出演。愛知万博においてセントラル愛知交響楽団「カルメン情話」フラスキータで出演。小林研一郎マエストロサロン、愛知県文化振興事業団コンサートシリーズ等出演。2007年NHK名古屋ニューイヤーコンサート、2008年FM名曲リサイタルに出演。

